令和７年度　江戸川区立春江中学校　学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート）

学校教育目標	○自ら進んでよく学び、協力して働く生徒 ○規律を守り、責任を重んずる生徒 ○心身ともに健康で、思いやりのある生徒	目指す学校像 目指す生徒像 目指す教師像	○未来を主体的に生き抜く力を育む学校 ○「１０年後、２０年後の『なりたい自分』」を思い描き、粘り強く一生懸命に取組む生徒 ○生徒の笑顔を第一に考え、生徒の視点に立ち、生徒に寄り添い、生徒の成長を支援できる教師
前年度までの本校の現状	成果 ・多くの生徒は授業を含めて行事にも前向きに真面目に取り組む生徒が多い。 ・江戸川区教育課題実践校として研修を進め、教員同士が互いに教えあい授業改善する環境が整っている。 ・「オクリンク」「ミライシード」「ムーブノート」の活用率が江戸川区内中学校で１番高い。 ・Foresight 手帳に自分のスケジュール記録して、計画的な生活ができる生徒が増えてきた。	課題	・将来の「なりたい自分」に向けて主体的に学びに向かう、課題を見つけて克服すること。 ・生徒自らが課題を発見するとともに、主体的にその課題や問題を解決していく力を身につけること。 ・やむを得ず登校できない生徒がエンカレッジルームや関係諸機関を通して学びの場を確保して未来へ歩き出すこと。また、不登校生徒の継続数の減少および新規数の抑制を図ること。

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度		「中間」自己（学校）評価(A～D)		「中間」学校関係者評価(A～D)		「年度末」自己（学校）評価（A～D）		「年度末」学校関係者評価（A～D）		次年度に向けた改善案
				9月	2月	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	
学力の向上	○令和の日本型学校教育の推進 ・単元テストの実施 ・手帳を活用した自己管理 ・ルーブリック評価の導入 ・ICT活用の推進	・各授業でゴール・めあてを決めて自ら学ぶ生徒をファシリテートしながら授業を展開する。 ・各教科で単元が終わるごとに単元テストを実施。Foresight手帳でスケジュールを自己管理する。 ・自らの課題に対して主体的に取り組むためにルーブリック評価を活用する。 ・放課後学習を充実させる。 ・英語に対して苦手意識がある生徒を減少させる。	・生徒向けアンケートで「わかる」「できた」の肯定的な回答を７０％以上にする。 ・「EDOスク」に参加させる。また、出席率を８５％以上にする。 ・Englishルームを開設してＡＬＴと関りをもたせる。 ・「よむYOMUワークシート」を30回実施し読解力を身につけさせる。	B		B	・Ｄ層をどう減らしていき、学びに向かわせるために自習教室など実施していく。 ・放課後補習教室の出席率が高いので、これを継続させていく。 ・Englishルームを開設したが、レイアウトを含めて十分に活用できていないので改善していく。	B	・定期考査の点数が取れない生徒でも真面目に授業を受けていたり、他の生徒の邪魔をしないことは良い。 ・どの生徒も落ち着いて授業を受けていて素晴らしいし安心した。					
	○読書科の更なる充実	・調べる学習コンクールを実施し、作品を提出させる。 ・図書室入り口でおすすめ図書棚を作成する。 ・引き続き探求的な学習を進める。	・参加率を４０％以上として、そのうち３作品の入賞を目指す。 ・おすすめ本を年間５０冊以上掲示、活用する。	B		B	・引き続き「よむYOMUワークシート」を活用する。 ・国語の授業を通して「書く力」を育成する。	B	・図書室の蔵書管理システムがデジタル化されることで、より充実することは良いこと。					
体力の向上	○生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現	・江戸川っ子Dance challenge を２月に実施する。 ・年間を通して体育の授業で補助運動を５分実施する。 ・保健の授業で生涯にわたり運動習慣の重要性や健康管理について学び、自己管理能力を育成する。	・生徒の９０％以上に参加させてニュースポーツの楽しさを実感させる。 ・新体力テストで「反復横跳び」の項目の東京都平均を上回る。	B		B	・生徒が多様な運動に親しみ、基礎体力を身につけ生涯にわたる豊かなスポーツライフの基盤を形成できている。 ・新体力テストでＤＥ層が５％以下であったことから補助運動の効果がでていた。	B	・生涯にわたって運動が好きで続けていく生徒を増やしてほしい。 ・運動会はどの生徒も笑顔が溢れていて良かった。					
共生社会の実現に向けた教育の推進	○共生社会の実現を目指したユニバーサルデザインの推進	・地域と連携して福祉体験を年１回実施する。 ・学校からの配布文書を全てＵＤ化する。	・９０％の生徒が参加し体験して事後アンケートで８０％以上の回答を達成する。	B		B	・福祉体験を充実させるために事前指導やPTAと連携していく。 ・エンカレサポーターの役割を明確化したことでＥＲを利用する生徒の学習が前進した。	B	・エンカレッジルームを見たが、自習、オンライン授業とその生徒に合わせた学びがあり、驚いた。これからは、行きたい高校を見つけて頑張ってもらいたい。					
	○多様な学び場の確保	・ＥＲを整備する。オンライン授業、地域の関係諸機関と連携する。	・ＥＲ・関係諸機関と連携してる生徒の満足度のアンケートを６０％以上にする。											
不登校・いじめ対応の充実	○いじめ・不登校が生じない魅力ある学校づくりの推進	・やむを得ず登校できない生徒を生じさせない学校つくりをする。 ・いじめ防止基本法に基づいた対応と支援を行う。 ・L-GATEを全学年で実施する。	・年度当初に遠足や友人との関係構築の機会をつくる。 ・年３回のアンケートと校内研修（3回）と授業を実施し、いじめを見逃さない。 ・L-GATEの結果を共有して活用する。	B		B	・L-GATEを実践し、気になる生徒については声掛け、共有をしている。 ・アンケート、授業、研修を実施し、生徒が安心して過ごせる環境づくりに努めている。いじめに対し組織的に迅速かつ適切に対応している。 ・やむを得ず登校できない生徒が９月末で５％程度である。引き続き支援を強化していく。	B	・不登校対策として学校がどのように取り組んでいるのか見れた。 ・様々な生徒に合わせた高校や学校があり驚いた。その生徒に合わせた進路や学校を見つけてほしい。					
	○エンカレッジルームの充実	・不登校巡回教員と連携してエンカレッジルームでの学習を充実させる。 ・生徒の実態に応じてデジタル機器で学習の支援をする。 ・ＳＣやＳＳＷとの連携を図る。	・オンライン授業の実施 ・教育支援委員会を週１回実施し情報と支援策を共有する。 ・不登校生徒、新規不登校発生率を昨年度より下げる。											
地域社会に開かれた学校の実現	○学校公開の実施およびホームページの充実	・学校公開期間の延長、道徳授業地区公開講座を実施する。 ・学校ＨＰを更新する。	・年４回の学校公開（道徳公開を含む）を実施する。 ・週に１０回学校ＨＰを更新し年間を通して継続的に情報提供を行う。	A		A	・行事や学校での出来事をＨＰに掲載することで学校での取り組みの見える化を図っている。 ・赤ちゃんふれあい、地域ボランティア、防災教室など生徒が主体的に行動し、自己肯定感を高める取組を引き続き実施していく。	A	・学校のＨＰは頻繁にみている。更新されているので学校の様子が分かって良い。 ・「赤ちゃん触れ合い」が復活してくれて良かった。引き続き地域と連携してもらいたい。					
	○教育活動の充実と発展	・地域と連携した体験授業を実施し体験学習の充実を図る。 ・行事等で生徒が主体的に企画・運営する機会を設ける。	・３年生を対象に「赤ちゃん触れ合い」を３月に実施する。 ・運動会で種目を生徒に考えさせる。											
特色ある教育の展開	○デジタル機器を活用した学習の推進と家庭学習の定着	・タブレットやデジタル教材を活用して生徒の理解を深める。 ・ミライシードを充実して家庭学習の定着を図る。	・デジタル学習アプリの利用率を区内中学校の３位内にする。	A		A	・タブレットの使用頻度が高く、ベネッセとも連携したデジタルドリルの活用や実施が高い水準でできている。 ・町会、区民事務所、小学校など多岐にわたって地域からボランティアの依頼を受け、多くの生徒が参加し地域へ貢献している。 ・年休取得に加え、看休などの取得率も高い。引き続き働き方改革を進めていく。	A	・iPadを使っているからか、ノートに書く作業が遅い生徒が目立っていた。書くことが苦手な生徒が多くなってきたのだと思う。 ・防災教室は参加させてもらうが、毎回中学生がよく動いて頼りになる。					
	○防災教育の充実と推進	・町会、消防、区と連携した防災教室を１２月に実施する。 ・日常から生徒の防災意識の向上を図る。	・12月に防災教室を実施し地域から３０名以上の参加を目指す。 ・月1回避難訓練を実施する。											
	○学校に関わる全ての人のウェルビーイングを目指す	・業務の効率化やＩＣＴの推進を推進して働きやすい環境を構築する。	・教職員の時間外労働を月平均で15時間以内に抑える。											